

## パブリック・コメント結果の公表について

令和8年3月3日

国見町教育委員会

「国見の教育ビジョン2021改訂版（案）」について、令和8年1月23日から令和8年2月11日までご意見を募集したところ、計9件のご意見をいただきました。

お寄せいただいたご意見の要旨とそれに対する町の考え方について、内容を整理し、以下のとおり取りまとめましたので、公表いたします。皆様のご協力に深く御礼申し上げますとともに、今後とも国見町の教育行政の推進にご協力いただきますようお願いいたします。

No.	ご意見の要旨	意見に対する町の考え方	対応
1	中間見直しとして、前半5年間の取組みについて「成果と課題」を簡潔に整理した総括を示すことで、今回の改訂の意義や、後半5年間で特に重視する点が、町民により分かりやすく伝わるのではないか。	本ビジョンは、過去の取組を評価・総括することを主目的とした評価報告書ではなく、今後の教育の方向性を町民と共有するための中長期的な教育ビジョンとして位置づけています。 一方で、中間見直しとして、これまでの取組による成果や、見えてきた課題を明らかにすることは重要であると考え、今回の改訂にあたっては、第1章「教育ビジョン改訂の理由」において、前半5年間の取組を通じて得られた成果と、国見町が直面している課題を整理し、後半5年間の取組につなげる形で明記しました。 今後は、こうした整理を踏まえ、説明資料の作	P6内に以下の文章を追記。 「国見町では、令和3年度に策定した教育ビジョンに基づき、学校・家庭・地域が身近につながる学びを進めてきました。その結果、子どもたちの学びに向かう姿勢や学校への信頼、地域とともに支える教育の広がりなど、国見町の教育の強みといえる成果が見られています。 一方で、出生数の減少に伴う子どもの人数の縮小や支援ニーズの多様化等により、これまでの取組だけでは

		成や進捗管理の場面においても、前半期間の成果と課題を分かりやすく示しながら、町民への丁寧な情報発信に努めてまいります。	十分に対応しきれない場面も増えつつあります。今回の改訂は、こうした国見町の実情を踏まえ、成果を土台にしながら、後半5年間に向けた教育の方向性をより明確にするものです。
2	各施策の評価指標について、数値による評価指標に加え、子どもや保護者、地域の声などの定性的な要素を把握し、それらを進捗管理の中で把握、共有する工夫が必要ではないか。	<p>教育の成果には、数値による指標のみでは十分に捉えきれない側面があることは重要な視点であると認識しています。</p> <p>本ビジョンでは、施策ごとの評価指標を設定するとともに、進捗管理や改善の循環を通じてアンケート結果や学校・地域での取組から得られる声や実感を踏まえながら、計画を継続的に見直していく考え方を示しています。</p> <p>今後の進捗管理においては、既存のアンケート等を活用し、子どもや保護者、地域の声を定性的に把握・共有するなど、本ビジョンが実態に即した「生きた計画」となるよう努めてまいります。</p>	修正なし
3	計画書全体において、「国見町」「国見」「町」「町全体」などの表記が混在しているため、主語や町名表記の使い分けについて整理した方がよいのではないか。	ご意見のとおり、本ビジョンでは内容の分かりやすさを重視する中で、町名や主語の表記に幅を持たせて記載している箇所があります。計画書としての統一感を高める観点から、主語や町名表記について再確認を行い、必要な整理を行います。	主語や町名表記を統一

4	<p>本文中で用いられている以下の「私たち」という表現について、誰を指しているのかが分かりにくいいため、主語を明確にした方がよいのではないか。</p> <p>P19 私たちの思い→全ての人々の思い</p> <p>P26 私たちが経験してきた時代→これまでに多くの人々が経験してきた時代</p>	<p>本ビジョンでは、町民とともに教育を考えていく姿勢を大切にする観点から、「私たち」という表現を用いている箇所があります。</p> <p>ご指摘のとおり、計画書として読み進めた際に、主語が明確であることは、内容の理解を深めるうえで重要な視点であると受け止めています。ご意見を踏まえ、文脈に応じて主語が明確に伝わる表現へと本文を見直します。</p>	<p>P19 内、「これからの教育をどのような思いで進めていくのかという、私たちの考え」を「国見町がこれからの教育をどのように進めていくのかという考え」に修正。</p> <p>P26 内、「私たち」を「これまでに多くの人々」に修正</p>
5	<p>「国見学」の意義は大きく、理解や習熟をさらに深めるため、ご当地検定やご当地カルタの制作などの取組も検討してはどうか。</p>	<p>「国見学」は、本ビジョンにおいて、ふるさとへの理解や誇りを育む重要な学びとして位置づけています。ご提案のような具体的な学習方法や教材の工夫については、学校や地域の実践状況を踏まえながら、今後の事業展開や取組の中で検討していきます。</p>	<p>修正なし</p>
6	<p>「第6次総合計画」との表記について、正式名称である「第6次国見町総合計画」とした方がよいのではないか。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、表題について正式名称に修正します。</p>	<p>目次及び P74 内、「第6次総合計画」を「第6次国見町総合計画」に修正</p>
7	<p>幼児期や小中学生に加え、高校生、大学生、若者世代を主な対象とした学びや取組の位置づけがわかりにく</p>	<p>ご指摘のとおり、高校生・大学生・若者世代は、学びや進路、地域との関わり方が大きく変化する重要な時期であり、本町の将来を考えるうえ</p>	<p>P42 内に以下の文章を追記 「こうした考え方のもと、生涯にわたる学びを、年齢や立場で区切るも</p>

	<p>く、年齢的に抜け落ち、分断しているように感じられる。これらの世代についても、計画の中で整理・位置づけを検討してほしい。</p>	<p>でも大切な世代であると認識しています。</p> <p>本ビジョンでは、学びを年齢ごとに分断して整理するのではなく、幼児期から学校教育期、その先の生涯にわたる学びを一つの連続した流れとして捉える考え方を基本としています。この考え方をより分かりやすく示すため、第3章3節「生涯学習・文化・スポーツ」の導入部において、高校生・大学生・若者世代を含めた学びの位置づけを明記しました。</p> <p>今後は、こうした考え方のもと、若者世代が地域や社会と関わりながら学び続けられる環境づくりについて、事業展開の中で具体化を図っていきます。</p>	<p>のではなく、高校生・大学生・若者世代を含め、地域や社会と関わりながら学び続けていく一体的な学びのあり方として捉えています。」</p>
8	<p>幼保一貫教育について、団体意識や道徳心、倫理観を育むためには、同一園舎内での教育が不可欠であり、従来型の集団での教育環境を維持すべき。</p>	<p>本ビジョンにおいても、幼児期は集団生活を通じて基本的な生活習慣や社会性を育む重要な時期であると位置づけており、子ども同士の関わりや体験活動を重視しています。</p> <p>施設の形態や運営方法については、教育効果だけでなく、子どもの安全性や地域の実情、法制度上の枠組み等を総合的に踏まえて検討する必要があります。</p> <p>いただいたご意見は、幼児教育の充実を考えるうえでの一つの視点として受け止めます。</p>	<p>修正なし</p>

9	<p>小・中学校について、校舎を廃止し、ICTを活用した完全オンライン化の教育へ移行すべき。このことで、通学、施設維持、給食、教職員の通勤等にかかる費用削減や教職員の働き方改革につながる。</p>	<p>本ビジョンでは、学校を単なる知識習得の場とは位置づけておらず、子どもたちが対面での学びや集団活動を通して、他者との関わりの中で社会性や協働性、倫理観等を育む重要な教育の場であると考えています。</p> <p>ICTの活用は今後も推進していきますが、校舎の廃止や完全オンライン化といった教育環境の大幅な転換は、義務教育制度の枠組み、子どもの発達段階、地域社会における学校の役割などを踏まえると、本ビジョンの基本的な考え方とは一致しないものと考えています。</p>	修正なし
---	--	---	------